

植 防 い し か わ

編集・発行
公益社団法人 石川県植物防疫協会

金沢市田中町か 26 - 1
石川県農業共済会館内
T E L 076-239-1511

印 刷 株式会社 共 栄

令和 8 (2026) 年 7 月 31 日 発行

No. 169・170 合併号

はじめに

事務局長就任ごあいさつ 藪 哲 男

会員の皆様をはじめ、関係機関の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。本年 4 月 1 日に当協会の事務局長を拝命いたしました藪でございます。

これまでは石川県職員として 38 年間勤務し、そのうち 28 年間は植物防疫関係の業務に携わってまいりました。

昨今、消費者の食の安全安心に対するニーズが一

層高まっており、このため生産者側からは良品質生産のための効力の高い安全使用の農薬が求められているなど、植物防疫がこれまで以上に重要となっております。もとより微力ではございますが、これまでの経験を活かして全力で協会発展に尽くす所存でございますので、何卒一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

6 月 20 日に气象台が平年より 9 日遅い梅雨入りを宣言したものの、昨年にも増して日照時間は多く、気温が高く推移しており、水稻など農作物への影響が懸念されるところです。

公益社団法人石川県植物防疫協会第 43 回通常総会の概要

令和 8 年 6 月 23 日午後 1 時 30 分より、石川県農業共済会館大研修室において、公益社団法人石川県植物防疫協会の第 43 回通常総会を開催しました。今年は来賓に石川県農林水産部次長兼ブランド戦略課長の山出光司氏に出席いただき、審議に先立ちご祝辞を賜りました。その後司会者の木下一男事務局技術主幹より、本総会の出席状況について、正会員 7 団体全てが出席し、定款第 25 条の議決要件が満たされていることが報告されました。続いて定款第 23 条の規定に基づいて田中肇会長理事が議長に就き、中村哲郎氏（石川県農薬卸商業協同組合理事長）と南範彰氏（石川県農業共済組合専務理事）を議事録署名人に選任し、当協会の葛城晴子主事を書記に任命しました。

議案は次の第 1 号から第 4 号までが上程され、いずれも藪事務局長の提案説明の後慎重審議され、全ての議案が原案のとおり満場一致で承認、可決されました。

目 次

1 はじめに.....	1
2 事務局長就任ごあいさつ.....	1
3 第 43 回通常総会の概要.....	1
4 第 52 回植物防疫指導者研修会の概要...	6
5 令和 7 年度主要病害虫の発生状況.....	7
6 第 37 回虫供養の式典.....	12

第1号議案

令和7年度事業報告及び収支決算承認の件

第2号議案

令和8年度会費徴収額及び徴収方法に関する件

第3号議案

理事及び監事の報酬額に関する件

第4号議案

理事の改選及び監事の補欠選任に関する件

〈農林水産部山出次長の祝辞〉

石川県植物防疫協会の第43回通常総会が開催されますことを、心からお祝い申し上げます。

田中会長理事をはじめ、本日、ご出席の皆様におかれましては、日頃から本県農政の推進に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

貴協会の取組は、本県の農産物の安全・安心の確保はもとより、安定生産や品質向上、さらには、環境に配慮した持続可能な農業の発展にも寄与するものであり、本県農産物のブランド価値の向上や農業所得の向上に重要な役割を果たされており、敬意を表する次第です。

当県では、農業を魅力ある産業として発展させるため、ブランド価値の向上や販路開拓に積極的に取り組んでいるところでありますが、その大前提として、県産食材への信頼を支える安全・安心の確保、および安定生産があります。

現在、全国的に果樹カメムシ類の注意報が例年よりも多く出されており、当県も6月11日に注意報を発出し、夏から秋にかけて被害の増加を警戒しているところで

今後も発生予察等に基づく、適期、的確な病害虫防除および農薬の適正使用の徹底について、皆様と連携を密にし、取り組みたいと存じますので、引き続き、ご協力をお願い申し上げます。



農林水産部次長兼ブランド戦略課長
山出 光司 氏



第 1 号議案 令和 7 年度事業報告承認の件

1 病害虫等防除推進事業

〈事業の内容〉

農作物や花木類に発生する病害虫や雑草の防除法に関する指導・助言、関連情報の提供、植物防疫研修会の開催、農薬適正使用の啓発等を通じ、安全で安心な県産農産物の安定生産に寄与する事業である。

(1) 防除相談・指導業務

- ・現場指導者から持ち込まれる病害虫等の診断・同定と防除指導、野菜の栽培法についての相談 10 件
- ・県が編集する「農作物病害虫・雑草防除指針」を増刷（280 部）し、会員、現場指導に携わる農業団体等に提供

(2) 農薬危害防止啓発業務

- ・農薬危害防止キャンペーン（6 月 1 日～8 月 31 日）にあわせ、チラシ 5,400 枚を作成・配布

(3) 研修会開催業務

- ・令和 7 年 7 月 15 日に石川県地場産業振興センターで開催
 - = 講演 =
イネカメムシの生態と防除法
 - = 講師 =
農研機構植物防疫研究部門
松倉啓一郎氏
- ・参加者は、市町・JA・NOSAI の植物防疫担当者のほか、農業試験場の研究員、農薬卸・販売業者、農薬メーカーのプロパー等 81 名

(4) 広報業務

- ・会報「植防いしかわ」を年 2 回発刊



当協会の行事や事業の進捗状況、除草剤・殺菌・殺虫剤の実験展示圃成績等を掲載し、会員、市町、農業団体等に紹介

- ・県が発表する病害虫発生予察情報（年 8 回）を毎回増刷し、JA、NOSAI 等の現場指導者、農薬卸業者等に伝達するとともに、当協会のホームページにも掲載して農家や一般県民に周知

(5) 無人ヘリコプター防除推進業務

- ・水稻、大麦、大豆等の病害虫に対する無人ヘリコプターによる防除について、石川県農業用無人ヘリコプター運営協議会との連携のもと、オペレーター、ナビゲーターに対する安全講習会をリモート（Zoom）を併用して令和 8 年 3 月 18 日に開催、参加者 42 名
 - = 講演 =
無人航空機防除における安全運航
 - = 講師 =
ヤマハ発動機株式会社
経営戦略本部新事業開発統括部
エアロソリューション部
富田博之氏

2 農薬試験事業

〈事業の内容〉

農薬による病虫害及び雑草の防除を安全かつ効率的に実施することを通じて県産農産物の安定生産・安定供給を図る目的のもと、開発未登録農薬の農薬登録に向けた圃場試験を実施した。

また、新規に登録された農薬の農家への普及に先立ち、県内各地で試験的に使用して現地適応性を検証する試験を実施した。

(1) 開発未登録農薬の実用性試験

農産物の安定生産・安定供給には、病虫害や雑草の防除を安全かつ効率的に実施することが重要であり、そのためには防除効果がより高く、毒性がより低い新農薬を迅速に農家に普及する取り組みが必要となる。

新農薬の登録審査に必要な薬効・薬害・作物残留に関する一連の試験を「開発未登録農薬の実用性試験」として、石川県農林総合研究センターとの連携のもと、令和7年度は87剤（前年90剤）の試験を受託し、当協会では57剤（前年58剤）を試験し、残り30剤（前年32剤）は石川県農林総合研究センターで試験された。

(2) 新規登録農薬の現地適応性試験

新規に登録された農薬について、農家普及に先立ち県内各地で試験的に使用し、効果の安全性、薬害発生の有無等を確認する試験を実施した。令和7年度は25剤で「普及性あり」の判定結果が得られた。

〈収支決算〉

決算書類として貸借対照表、正味財産増減計算書の概要表を以下のとおり掲載します。

貸借対照表

令和8年3月31日現在

(単位：円)

勘定科目	当 年 度	前 年 度	増 減
流動資産合計	1,007,454	1,151,798	△ 144,344
固定資産合計	16,286,000	14,823,000	1,463,000
資産合計	17,293,454	15,974,798	1,318,656
流動負債合計	1,321,360	1,666,100	△ 344,740
固定負債合計	8,486,000	7,023,000	1,463,000
負債合計	9,807,360	8,689,100	1,118,260
正味財産合計	7,486,094	7,285,698	200,396

正味財産増減計算書

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで (単位：円)

勘定科目	当 年 度	前 年 度	増 減
受取会費計	2,370,000	2,400,000	△30,000
事業収益計	34,247,952	37,230,160	△2,982,208
受取補助金等計	1,330,813	1,332,982	△2,169
雑収益計	722,038	689,535	32,503
経常収益計	38,670,803	41,652,677	△2,981,874
事業費計	36,189,415	39,939,430	△3,750,015
管理費計	2,280,992	2,420,304	△139,312
経常費用計	38,470,407	42,359,734	△3,889,327
当期経常増減額	200,396	△707,057	907,453
一般正味財産期首残高	7,285,698	7,992,755	△707,057
一般正味財産期末残高	7,486,094	7,285,698	200,396

第2号議案 令和8年度会費徴収額及び徴収方法に関する件

正会員7団体 計28口、84万円、賛助会員32会員、1口（3万円）以上とし、令和8年8月31日までに振り込む。

第3号議案 理事及び監事の報酬額に関する件

理事報酬は年額80万円以内、監事報酬は年額8万円以内とする。

第4号議案 理事の改選及び監事の補欠選任に関する件

本年は理事改選年にあたること、また、中村理監事から、第43回通常総会の終結時をもって辞任する旨の申し出があった。このため理事および監事を選任した。

※会長理事、副会長理事については、総会終了後の理事会にて選任した。

役 職	氏 名	所 属
会 長 理 事	田 中 肇	石川県農業共済組合組合長理事
副会長理事	橋 本 豊巳夫	石川県農業協同組合中央会専務理事
理 事	中 西 良 祥	全国農業協同組合連合会石川県本部県本部長
理 事	中 村 哲 郎	石川県農薬卸商業協同組合理事長
理 事	西 川 一 郎	石川県野菜園芸協会会長
理 事	浦 野 久 司	石川県果樹園芸協会副会長
理 事	橘 順 吉	石川県森林組合連合会会長
理 事	藪 哲 男	公益社団法人石川県植物防疫協会事務局長
監 事	荒 井 守	石川県農業共済組合参事
監 事	中 村 雅 人	北陸スカイテック株式会社取締役社長

第52回植物防疫指導者研修会の概要

7月9日（木）に第52回植物指防疫指導者研修会を石川県農林総合研究センター農業試験場において開催しました。農研機構植物防疫研究部門病害リスク評価グループの研究員井之口曜氏を講師にお招きし、「イネ紋枯病の発生生態及び発生予測・薬剤散布適期連絡システムの紹介」についてご講演いただきましたので、その概要を紹介いたします（当日使ったパワーポイントの画像は、著作権の関係で掲載しておりませんことをご了承ください）。参加者は総勢80名でした。



講師の井之口 曜氏

【講演要旨】

イネ紋枯病は、水稻病害のうち全国で最も発生面積の大きい重要病害であり、多発条件下では収量および品質の低下を招く。近年は作付け期間中の高温や集中豪雨、台風の到来などの影響により、被害が増大しており、的確な防除判断が求められている。しかし、紋枯病の病勢進展は気象条件の影響を受け、急速に上位進展するとともに隣接株へ伝染するため、防除適期の判断が難しいという課題がある。

本研修では、まず紋枯病の発生生態として、伝染源、株内での垂直進展、株間での水平進展などの伝播様式、および発病と被害の関係について整理する。次に、総合的病害虫・雑草管理（IPM）の観点から、発生予測に基づき薬剤散布適期を提示する連絡システムの概要を紹介する。ここでは、イネ紋枯病を含む6種の発生予測・薬剤散布適期連絡システムについて取り上げる。本システムでは気象データや栽培情報を活用し、圃場ごとの散布適期をリアルタイムに提供することで、防除効果の向上

と過剰な散布の削減を図ることが可能である。

本研修を通じて、紋枯病の発生生態の理解と防除判断の高度化に向けた具体的手法について共有し、現場における実践的な活用に資することを目的とする。



研修会の様子

令和7年度 主要病害虫の発生状況

石川県農林総合研究センター 病害虫防除室

水稻(22,600ha)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
育苗期の病害	平年：やや遅い 前年：並	平年：やや少 前年：並	(1)育苗期の細菌病では、もみ枯細菌病および苗立枯細菌病が少発生した。 (2)ピシウム、フザリウムによる苗立枯病、ばか苗病の発生は少なかった。 リゾプス、トリコデルマによる苗立枯病の発生は確認されなかった。	(1)育苗期間中は高温に推移したため、苗の生育は順調で病害の発生は少なかったが、細菌病の発生はやや助長された。	(1)種子消毒、育苗箱施薬の実施 (2)適切な育苗管理の指導
葉いもち	平年：並 前年：早い 初発7月7日	平年：少 前年：並	(1)本田初発は7月7日（平年7月4日）に確認された。 (2)梅雨明けは7月18日で、高温で推移し、BLASTAMによるいもち病感染好適条件の出現も少なく、葉いもちの発生は少なかった。	(1)前年の穂いもちの発生は、少であった。 (2)BLASTAMによるいもち病感染好適日は、6月2半旬から6月6半旬まで出現していたが、7月以降の出現は無かった。	(1)情報提供（携帯メールによるBLASTAMの感染好適日状況の配信） (2)葉いもち発生圃場での追加防除の実施
穂いもち	平年：遅い 前年：遅い 初発9月10日	平年：少 前年：少	(1)穂いもちの発生は少なかった。	(1)葉いもちの発生は少なく、出穂後の気温が高く推移したことから、穂いもちの発生は少なかった。	(1)穂いもちを対象に基幹防除が実施されている。
紋枯病	平年：早い 前年：早い 初発6月17日	平年：やや多 前年：並	(1)初発は6月17日（平年7月2日）に確認された。	(1)初発は早く、水稻の生育期間全体を通じて、気温が高く推移したことから、発生は多くなった。	(1)基幹防除に位置づけられている。
白葉枯病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	(1)全般的に発生は少なかった。	(1)用水路の整備により病原菌の越冬源が減少している。	(1)常発地では予防粒剤による防除が実施されている。
ごま葉枯病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	(1)海岸付近の砂壤土などの低地力地帯で発生している。	(1)夏季の高温が発生を助長した。	(1)個別の防除は行われていない、いもち病対象の防除で対応している
稲こうじ病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	(1)全般的に発生は少なかった。	(1)中生の出穂期前後の降雨が少なかった。	(1)本病に対する防除は、薬剤、時期ともに単独の追加防除となるため、実施されにくい。
イネミズゾウムシ	平年：早 前年：早 5月～6月	平年：並 前年：多	(1)本田への侵入盛期は5月第4半旬で、発生は多かった。	(1)発生は地域間で差が見られ、一部の山間部でやや多かった。 (2)予防粒剤が普及し、発生を抑えている。	(1)育苗箱施薬による防除が主体となっている。

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
イネドロ オイムシ	平年：並 前年：並 5月下旬～ 7月	平年：少 前年：並	(1)発生は少なかった。	(1)全般的に高温で推移し、 一部圃場で局地的に発生が あった以外に発生は少な かった。 (2)予防粒剤が普及し、発 生を抑えている。	(1)苗箱施薬によ る防除が主体と なっている。
ツマグロヨ コバイ	平年：やや 遅前年：並	平年：並前 年：少	(1)本田すくい取りで、6 月28日に珠洲市の定点調 査ほ場で初確認した。 (2)発生は、平年並みであ った。	(1)本年はある程度の積雪が あり、発生は平年並であ った。 (2)前年に被害が発生した所 では、畦畔除草、予防粒剤 の施用や基幹防除を徹底 し、発生が抑えられた。	(1)基幹防除を実 施している。
セジロウ ンカ	平年：早 前年：早 7月上旬～ 8月	平年：多 前年：多	(1)本田掬い取りでは6月 17日に羽咋市定点圃場で 初確認した。 (2)才田町に設置した予察 灯の誘殺ピークは8月中 旬と平年に比べて早く、 誘殺量も多かった。 (3)発生量は平年に比べて 多かったが、被害は平年 並みであった。	(1)海外からの飛来次期が 早く、飛来量も多かった ものと考えられる。	(1)基幹防除を実 施している。
斑点米カ メムシ類	平年：早 前年：早 5月～9月	平年：多 前年：多	(1)6月中下旬に実施した 定点の雑草地における生 息密度調査で、1地点当 たりの平均成虫数は18.5 頭（平年9.0頭）と多か った。 (2)7月下旬に実施した本 田侵入調査で、1地点当 たりの平均成虫数は18.7 頭（平年9.6頭）と多か った。 (3)クモヘリカメムシ・ア カスジカスミカメの発生 が多くみられた。山間部 では局地的にクモヘリカ メムシが多発した。	(1)注意報を发出して防除 を呼び掛けた。 (2)全般的に気温が高く推 移し、生息密度が高く なったと考えられる。 (3)8月中旬以降もクモヘ リカメムシが本田で確認 されており、継続した飛来 があったと考えられる。	(1)注意報の発 表：7月3日、 7月31日 (2)出穂7～10日 後と14日～17日 後の2回防除を 徹底

大麦(1,198ha)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
赤かび病	平年：並 前年：並	平年：少	(1)発生は、少なかった。	(1)本年は、出穂期頃の降 水量が少なかった。 (2)近年、少発生傾向にあ る。	(1)出穂後2回防 除の徹底
オオムギ 雲形病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	(1)散発的に発生が認めら れた。	(1)近年、少発生傾向にあ る。	(1)種子消毒の実 施
裸黒穂病	平年：並 前年：並	平年：やや 多 前年：やや 多	(1)少発傾向の中で、河北 潟干拓地において発生が 見られた。	(1)以前から、農薬の使用 を減らす栽培ほ場が集中 する地区で発生が見られ ていた。	(1)種子消毒の実 施

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
うどんこ病	平年：早い 前年：並 12月～6月	平年：多 前年：並	(1)前年の発生は並であったが、本年は少発生であった。	(1)気温は高かったが、降水量は平年並みとなり、防除効果もあったためか、発生は少なかった。	(1)赤かび病防除により併殺されている。

大豆(981ha)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
紫斑病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	(1)発生は平年並みであった。	(1)近年、少発生傾向にある。	(1)種子処理による消毒と幼莢期～子実肥大期に防除を実施
茎疫病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	(1)発生は少なかった。	(1)近年、少発傾向にある。	(1)随時防除を実施している。
ハスモンヨトウ	平年：並 前年：並 8月中～9月	平年：多 前年：多	(1)フェロモントラップの誘殺数は、平年よりも多かった。 (2)大豆ほ場での食害は、少なかった。	(1)基幹防除により発生は抑えられた。	(1)基幹防除を実施している。
フタスジヒメハムシ	平年：やや早い 前年：並 7月上旬～9月	平年：並前 年：やや多	(1)発生は、多であった。	(1)6月中旬は高温少雨に経過し発生を助長した。 (2)播種時処理剤の普及及び8月の基幹防除により発生は抑えられた。	(1)種子処理を実施している。
ハダニ類	平年：やや早い 前年：並 7月～8月	平年：やや多 前年：やや多	(1)発生は少であった。	(1)高温少雨の期間が長く続いたことが関係していると思われる。	(1)随時防除を実施している。
吸実性カメムシ類	平年：やや早い 前年：並 7月下旬～9月	平年：やや多 前年：やや多	(1)発生は、多かった。 (2)予察灯の誘殺数は、多かった。	(1)5月～9月の生育期全般を通じて、概ね高温に経過したことから、発生は多かった。	(1)幼莢期～子実肥大期に基幹防除を実施している。

なし(129ha)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
黒斑病	平年：並 前年：並 5月～9月	平年：少 前年：並	(1)発生は少であった。	(1)感染時期の降雨量が少なかった。	(1)罹病性品種への特別防除
黒星病	平年：やや早い 前年：並 4月下旬以降	平年：多 前年：多	(1)発生量は並であった。	(1)5月上旬の気温や降雨が平年並みであったため。	(1)近年の多発傾向から、罹病落葉などの伝染源の除去が徹底されている。
ハダニ類	平年：やや早い 前年：並 6月～9月	平年：多 前年：少	(1)発生は少なかった。	(1)夏季でも定期的な防除より発生が抑えられた。	(1)計画的に防除を実施している。

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
カメムシ類	平年：やや早い 前年：並 6月～9月	平年：多 前年：多	(1)発生量は多かった。 (2)水銀灯への飛来数は、クサギカメムシ、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシが平年より多かった。	(1)積雪が少なく、相当数が越冬したこと、春先からの気温の上昇により発生数が多くなった。 (2)梅雨明けが早く、高温により誘殺量が増えたと考えられる。	(1)計画的に防除を実施している。

りんご(31ha)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
斑点落葉病	平年：並 前年：並 6月～9月	平年：やや少 前年：やや少	(1)全般に発生は多となった。	(1)防除も含め栽培管理が行き届いていない園で発生している。	(1)予防主体の防除を実施。
褐斑病	前年：並	平年：並 前年：並	(1)発生は平年並みであった。	(1)防除も含め栽培管理が行き届いていない園で多発が見られる。	(1)予防主体の防除を実施。
ハダニ類	平年：やや早い 前年：並 6月～9月	平年：やや多 前年：やや多	(1)発生は少であった。	(1)真夏でも定期的な降雨があったため発生が抑制された。	(1)計画的に防除を実施している。

ぶどう(128ha)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
灰色かび病	平年：並 前年：並 4月～6月	平年：少 前年：少	(1)発生は少であった。	(1)5月～9月にかけて高温傾向に推移したため発生が抑えられた。	(1)予防主体の防除を実施。

かき(117ha)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
炭疽病	平年：並 前年：並 7月下旬～10月	平年：多 前年：多	(1)発生は平年並みであった。	(1)前年の発生量が多かった。 (2)管理が行き届かない園周辺での発生が多い	(1)予防主体の防除を実施。
カメムシ類	平年：並 前年：並 6月～9月	平年：多 前年：やや多	(1)発生量は平年よりも多かった。特に、中山間地で多かった。 (2)水銀灯への飛来数は、クサギカメムシ、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシが平年より多かった。	(1)積雪が少なく、相当数が越冬したこと、春先からの気温の上昇により発生数が多くなった。 (2)梅雨明け後の高温により誘殺量が増えたと考えられる。	(1)計画的に防除を実施している。

すいか(190ha)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
つる枯病	平年：並 前年：並 6 月上旬	平年：多 前年：並	(1)発生は平年並みであった。	(1)定期的な防除により発生は抑えられた。	(1)予防主体の防除を実施。
炭疽病	平年：並 前年：並 6 月下旬以降	平年：多 前年：並	(1)発生は平年並みであった。	(1)定期的な防除により発生は抑えられた。	(1)降雨前後の防除を実施。
アブラムシ類	平年：並 前年：並 6 月下旬以降	平年：多 前年：やや多	(1)全般に発生は多であった。	(1)梅雨明けが早く、その後の少雨期間も長かったため、発生が助長された。	(1)基幹防除を実施している。

夏秋きゅうり(10ha)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
うどんこ病	平年：やや遅 前年：遅	平年：やや少 前年：少	(1)発生はやや少なかった	(1)高温少雨の期間が長く続いたことが関係していると思われる。	(1)予防主体の防除を実施。

冬春トマト(28ha)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
灰色かび病	平年：やや早 前年：やや早 4 月～6 月	平年：少 前年：少	(1)5 月下旬から発生が認められたが、大きな進展はなく平年よりやや少なかった。	(1)5 月～6 月にかけて高温多照に推移し、発生が抑制された。	(1)予防主体の防除を実施。

秋冬ダイコン(73ha)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
コナガ	平年：遅 前年：遅 9 月～10 月	平年：多 前年：少	(1)フェロモントラップの誘殺数は並となった。 (2)調査ほ場における発生は少なかった。	(1)本年は 1 月～2 月の気温が低かったこと等により発生は抑えられた。	(1)基幹防除を実施している。

夏秋キャベツ(8ha)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ヨトウガ	平年：遅 前年：遅 8 月～10 月	平年：多 前年：少	(1)フェロモントラップの誘殺数は平年より多かった。 (2)調査ほ場における発生は少なかった。	(1)9 月下旬まで高温が続く発生が抑制された (2)9 月下旬以降発生が多くなったが、シロイチモジヨトウ等の他のヨトウムシ類の防除により、ほ場での本虫の被害は抑えられた。	(1)基幹防除を実施している。

夏ねぎ(24ha)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
軟腐病	平年：並 前年：並 6月～9月	平年：多 前年：多	(1)発生は多かった。	(1)大雨による浸水および 夏季の高温	(1)基幹防除・排 水対策を実施し ている。
シロイチ モジヨト ウ	平年：遅 前年：遅 9月～11月	平年：多 前年：多	(1)8月までの発生は少な かったが、9月以降発生 が急増し、多発した。	(1)薬剤抵抗性の発達 (2)発生が急増した時期と 農繁期が重なったこと による対応の遅れ	(1)基幹防除を実 施している。

虫 供 養 の 式 典

虫塚にて、6月4日17時30分より今年で37
回目となる虫供養の式典を執り行いました。

石川県庁から農林水産部の山出次長、県農林
総合研究センター松田所長をはじめ多くの方々
がご参列くださいました。



虫塚



田中会長お礼のあいさつ

編 集 後 記

梅雨明けの報がようやく届きました。今年は連日の猛暑が報じられていますが、石川県で猛暑日となったのは7月21日の七尾のみでした(7月31日現在)。一方で熱中症警戒アラートは6回発表され、体感的には厳しい暑さが続いています。

そのような折、熊本では震度7の大地震が発生しました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。会員の皆様には、どうか体調管理にご留意いただき、暑さの続く季節を安全にお過ごしくださいますようお願い申し上げます。